



自治協議会が
元気な地域づくりの
今、を発信

新川地区

(No. 2)

住んで良かったと

言えるまちに

新川地区は現在、8行政区130世帯291名が生活する自然環境に恵まれた地域です。しかし、過疎化・少子高齢化は急速に進み、地域産業も衰退し、姫治小学校に通う地元児童は5名となり、小学校再編の問題があたり、頭を悩ませているのが現状です。また、新川地区では、毎年高齢化率は上がり、50・2%になっています。そこで新川地区自治協議会では、75歳以上一人暮らし訪問及び安否確認表を作成し、毎月一回調査を実施し、どんな状態かを把握しているところです。

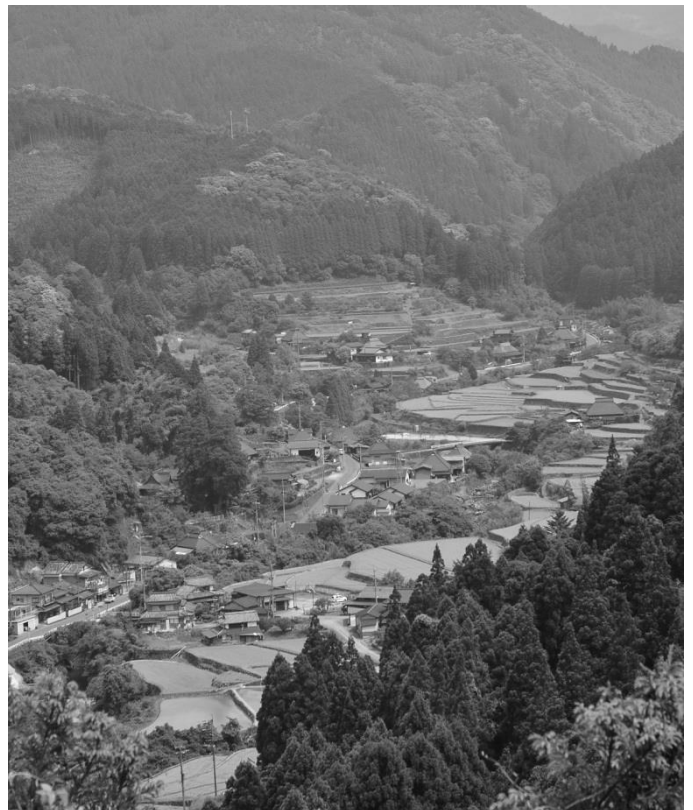
このような中、新川地区自治協議会では、地域計画に基づいて「美しい景観を守り人と人が支え合って暮らすまち新川」を目標に、地域住民一人一人が「自らの地域

は自らが創る」といった意識を持ち、多くの住民が自治会活動に参加することにより、安全安心で住んで良かったと言えるまちにすることを目指していきます。



▲コミセンで開催する写真展では、地区行事や家族の懐かしい記憶がよみがえる
(今年は8月13日～15日開催予定)

▼谷あいには集落(栗木野～本村)や棚田を見渡す眺望は、これからも残したい新川の風景の1つ



地域・企業等が連帯 美しい新川を守る

美しい景観を守り、人と人とが支え合って暮らすまち新川を目指していますが、過疎化・少子高齢化は進み、空き家や耕作放棄地は年々増加しています。

自らの地域は自らが創るとの意識を持ち、今できることから取り組みとして、空き家の活用、棚田を守る会、棚田オーナー制度、

また企業・団体などの支援等も頂いて景観の保全に取り組んでいるところです。

また、彼岸花&ばさら祭り及び森林セラピー等で多くの方がこの地域を訪れていますので、今後も交流人口の増加や、地域特性を生かした特産品の開発・販売等の地域活性化策を進め、住み続けられる、住みたい新川を目指し住民と一体となり取り組んでいきます。

●問合せ 市民協働推進課 コミ
ユニティ支援係 TEL 7554982